

中学校区におけるめざす子ども像
人から信頼され、何事も徹底してやりぬくたくましい子

令和7年度 学校教育目標 『多様性を認め合い、自分で考え、判断し、決定し、行動できる子どもの育成』～自律と対話～
みんなががっさい(多様性)自分で決める(自律)違いを対話で分かち合う(対話)

<p>確かな学びの現状 本校では、「主体的に学習に向かう力」や「粘り強く取り組む力」「多様な意見に対してのコミュニケーション力」など、『自律的に学び続けることができる児童』の育成をめざし、さまざまな取組を行ってきた。成果としてノートに自分の考えやふりかえりを書いたり、話し合い活動に取り組んだり、本校独自の漢字検定や計算検定に粘り強く取り組んだりすることにより、「自分たちで取り組もう」「友だちと教え合おう・考えを受け入れる力」という学びに主体的に向かう姿勢が見られ始めている。一方、既習事項の活かし方が分からなかったり既習事項が定着していない児童においては「最後まで自分で考える」「粘り強さ」などの能力が伸び悩んでいる。今年度もみんなが「分かる」学習指導の追究を通して、基礎学力の定着を図りながら、学習を自分事としてとらえられる「当事者意識」を持った学ぶ姿勢の育成が必要である。</p>	<p>豊かな心・健やかな体の現状 ・全学年でのたてわり活動を通して、仲間づくりを行っている。異学年交流を行う中で、上級生が下級生に優しく接する姿が見られるなど、児童同士のつながりが深まっている。児童アンケートの結果から「違う学年の子と協力している」では肯定評価81%であった。また、「自分のよいところを知っている」が77%、「自分でやるべきことは最後までがんばるようになっている」が83%、「感情をコントロールする」が72%で肯定的な回答をする児童が多い。 ・様々な体育の行事を通して、運動習慣を身につけさせ、体力向上の取り組みを行っている。運動好きの児童は86%。また、朝ご飯を毎朝食べていない児童が約18%、毎日排便をしている児童は約44%で課題が見られる。また寝る時間が遅い(22時以降)の児童は約43%である。食育指導、眠育指導をとって改善していきたい。加えて、よく考えて判断できる力を身に着けるため、危機・時間管理能力の向上を図っていききたい。</p>
---	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	学力向上	『自分で考え行動する子』の育成をめざし、当事者意識(自律)を持った学習者としての自覚を高める。	●すべての教育活動を通して、学校教育目標にある『自分で考え行動する子』(当事者意識(自律)を持った学習者としての自覚)を育てる。	・【学調】「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」【学ア】「自分の考えを主体的に表現できる」「授業で問題解決のため、友だちと協力しながら取り組んでいる」で肯定評価80%以上	学校アンケート	年度末			
			●基礎学力の定着と自尊感情・当事者意識の育成のために、学校独自の「漢字検定」、「計算検定」を実施し、事前事後の指導を行う。	・漢字検定の合格率90%以上 ・計算検定の合格率80%以上	自作テスト 学校アンケート	年度末			
			●あらゆる機会を活かし、子ども用タブレット端末の活用技能を習得させるとともに、当事者意識育成の手段として個別最適化・学習の個性化を意図した授業を行っている	・「タブレットを使って、学習を進めている。」で肯定評価80%以上 ・授業において、個別最適化・学習の個性化を意図した授業を行っている	学校アンケート 教職員アンケート	年度末			
授業改善	教員自らの子ども理解を広げ、深めるために校内研修を進め、子どもの意識の流れを重視する授業構成力を高める。	●各教科の学習において『自分で考え行動する子』の育成をめざし、子ども理解を目的とした『全員が分かる』授業づくりと評価を行う。	・「子ども理解を目的とした『全員が分かる』を意識した授業づくりをしている」で肯定評価80%以上	教職員アンケート	年度末				
		●話し合い活動やお互いを承認し合える集団作りを通して、コミュニケーション力(メディア・リテラシー含)を涵養し、当事者意識を育てる。	・「授業において、コミュニケーション力や当事者意識の育成に注力している」で肯定評価90%以上	教職員アンケート	年度末				
		●教員自らの子ども理解を広げ、深めるために校内研修を進め、子どもの意識の流れを重視する授業構成力を高める。	・研究授業後、「子どもに対する見方考え方が広がったり、深まったりして、自らの授業を改善することに役立った」で肯定評価90%以上	教職員アンケート	年度末				
豊かな心	豊かな心	人権尊重を基盤とした教育活動を充実させ、豊かな人生を送るための態度やスキルを育成する。	●学校行事や学級活動を充実させ、自他の良さを認め合い(多様性)、自尊感情を高め、違いを対話で認め合える(対話)取り組みを行う。	・「たてわり活動では、違う学年の子と協力して活動している」「自分のとくいなことをしている」問題解決のために話し合いを重視している」で肯定評価90%以上	学校アンケート	年度末			
			●いじめ防止の観点から道徳科等において「いじめ問題」に関する教材を指導し教職員研修を行うとともに、子ども自らが「感情のコントロール」ができるように支援する。	・「いじめは絶対してはいけないものだ」と知っている」肯定意見100% ・「自分で感情のコントロールができる」肯定的意見80%以上	学校アンケート	年度末			
			●なわとび検定を行い、技能の習得とともに、粘り強さや自己調整能力を養う。	・各学年の目標級を達成する。 1年80% 2年80% 3年70% 4年80% 5年50% 6年40% ・粘り強さや自己調整能力の項目で肯定評価80%以上	各担任の調査 学校アンケート	年度末			
健やかな体を次世代に育つ子	健やかな体を次世代に育つ子	基本的な生活習慣を確立し、健康の保持増進や危機管理能力の向上に努める。	●規則正しい生活習慣を身につけるための指導を実施し、健康増進及び危機安全管理・時間管理等の自己管理能力を育成する。	・食育や眠育、はみがきの重要性について、理解が深まったという肯定評価80%以上 ・危機安全管理・時間管理等の自己管理能力の高まりの項目で肯定評価70%以上	生活アンケート	年度末			
			●小中一貫教育担当や研修主任、生徒指導主任が中心となって、中学校区の共通課題を見出し、一貫した学習指導や生徒指導をめざす。	・「学校間で参観に行く機会を増やす」肯定評価75%以上	教職員アンケート	年度末			
校長より(年度末)							学校関係者評価者から(年度末)		